

出会いから見えたもの

思い切って引き受けた引率が、猛威を奮ったインフルエンザの影響で中止になったのは2年前。引き受けたものの、その時は不安のほうが大きく正直ほっとしたのを覚えています。そして今回、気持ちの準備が十分できていたので、オリエンテーションの時から派遣生の様子を個々にじっくり見ることができ、滞在している間の派遣生の変化を目の当たりにして、中高生でこのようなすばらしい体験をすることは彼らの将来に必ず深い意義を残すと感じました。

行く前の私の大きな目標は2つ。1つ目は派遣生全員を無事に連れて行って、無事に連れて帰って帰ること。引率者として当たり前なのですが、「とにかく無事に・・・」ということをつも頭におきながら行動していました。結局その心配は必要なく、いつもとてもまとまって行動し、誰に言われずとも声をかけあい、お互いをいつも気遣うすばらしい派遣生でした。違う学校で、歳もバラバラの12名が同じ経験を通して本当の仲間になっていきました。自己紹介から始まり、小学校でのパフォーマンス、ブッシュダンスでのパフォーマンスと最後の挨拶、会を重ねる毎にみんなの自信が溢れてきて、堂々としていて、ユーモアのある最高のグループだ！と何度も褒めていただきました。褒められる度にパワーアップしていきましたね。

2つ目の目標は私自身が人見知りをせずたくさんの人と話すこと。派遣生達に同じことを望むならまずは自分でやってみるしかありません。オーストラリアは何度か訪れていますが、カムデンは初めての場所なので、知らない人と話すことの緊張感や不安感は派遣生と同じものがありました。とにかく人と人との出会いは話してみなくてはわかりません。会った方とはとにかく何か話してみようと思っていました。CIFAの方々はもちろん、ホストファミリーの方々にも送迎で会う度に話しかけて、派遣生達の様子を聞いてみました。そこから見えてきたものは、CIFAの方々のきめ細かな準備と派遣生達をいつも気遣ってくれる熱い思い、食事は足りたかな？おいしかったかな？楽しんでるかな？と常に気にかけてくださいました。そして温かいホストファミリーの方々の姿、我が子のようにいろいろ心配してくださり、お家での様子を話してくれました。どの方もこの子ならいつでも大歓迎よ！と言ってくださり、胸が熱くなりました。本当に温かい方々ばかりでした。派遣生達がこんなに素敵な方々に囲まれて過ごした日々は一生の財産になることでしょう。そしてこの派遣事業が日本のKIRAの方々も含め、たくさんの方に支えられて成り立っていることに改めて驚きました。

私のホストファミリーは3年前に引率で日本に来られて私の家に泊まったモーリーンさんとジョンさんご夫妻。モーリーンさんはエリザベスマッカーサーの英語の先生、ジョンさんは4月にカムデン高校の校長を退職されたばかり。お子さん達を自然の中で育てたいと選んだ5エーカーの大きな敷地の中で、静かに穏やかに時間が過ぎていきました。家にいるときには、鳥や虫の声、木々の音しか聞こえません。夕ご飯を早めに終えると、今はお二人で長い夜を静かに過ごしていらっしやいました。こういう環境が人の心を穏やかに、大らかにさせるのでしょね。その中にお子さん達に対しての子育ての芯がしっかりと見えて、とにかくよく話し、よく議論するとおっしゃっていました。自分の考えをしっかりと持つことは家庭の環境の中でも作られているんだと思いました。快く私を引き受けてくださって、たくさんのことを説明してくださったお二人に本当に感謝しています。

カムデンでの12日間は私にとっても派遣生達にとっても一生の宝物です。14名みんなでまた行きたい！と心から思いました。ホストファミリーの方々との最後の別れは、中高生の派遣生達にとって一番大きな別れだったかもしれません。成田に着いてからも「カムデンに帰りたい！」そう叫んでいましたね。派遣生達にはこのカムデンでの出会いをこれからも大切にしてもらいたいと願っています。

12名の派遣生、引率の山口さん、この派遣事業を支えてくださっているすべてのみなさま、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



ホストファミリーのモーリーンさんとジョンさん